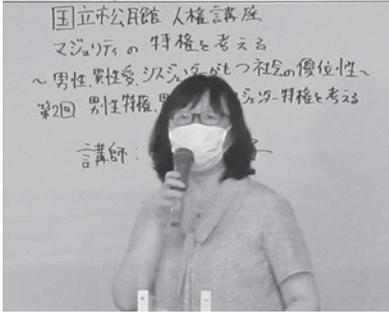


講座参加者の声

公民館では年間を通してさまざまな主催講座が行われています。今年7月～9月に実施した講座に参加された方々に、感想を寄せていただきました。講座の雰囲気味わっていただければと思います。



講師の出口真紀子さん

ここの5年ぐらいで最も感銘を受けた本は、伊藤詩織さんの『ブックボックス』である。
この本に述べられているような性暴力に苦しむ女性は、日本に大勢いるだろう。男の私に、何か役に立てることはないだろうか、と常々思っていた。

〈人権講座〉「マジョリティの特権を考える」
男性・異性愛・シスジェンダーが持つ社会の優位性
東 健太郎

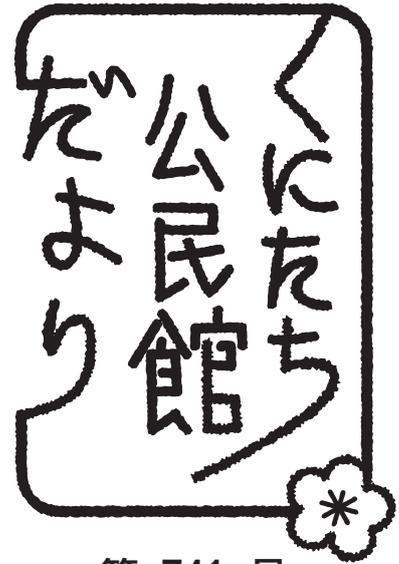
本講座「マジョリティの特権を考える」は、そのような私にとって、どう行動したら良いのかの指針を与えるものとなった。
一般に、マジョリティがマイノリティを差別する場合、マイノリティの側に焦点を当てがちである。しかし、本講座ではマジョリティの側に焦点を当てていて、そこが画期的である。
以後、私が最も関心のある女性差別について考察していく。
女性に比べて男性には数々の特権があるという。以下、女子大生が考えた男性特権の一部を列挙する。
○夜、不安なく一人歩ける。
○酒席で、自分のグラスに睡眠薬

○将来のキャリアを考えるに当たって、結婚や育児などと自分のキャリアを天秤にかける必要をあまり感じない。
○満員電車に乗る時に、自分の身体が他人から意図的に触られるのではないかと不安に思ったことがほとんどない。
このような特権があることに、男の私はあまり気づけなかった。これは、日本で男性として生まれ、男性として生きていることで自動的に受ける恩恵なのである。逆に、特権のない側は不利益を被り、差別されている、ということになる。



老若男女問わず様々な方が参加されました

ここで初めて特権と差別は表裏一体だということに気づいた。であれば、自分で男性特権について考える癖をつけることが大事なのではないか？
そのためには、虚心坦懐に女性



第 741 号

2021年11月5日
(令和3年)

「くにたち公民館だより」
ホームページのQRコード▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

今月の公民館 (11月～12月中旬)

- 11日(木)夜 ブッククラブ 向田邦子『思い出トランプ』
- 18日(木)朝 ★子育て世代の防災講座
- 21日(日)昼 ★図書室のつどい
- 『ろうの両親から生まれたぼくが聴こえる世界と聴こえない世界を行き来して考えた30のこと』
- 25日(木)昼～ 近現代史「もういちど、近現代史」
- 27日(土)朝 人権講座
- 「インターネットと中傷被害を考える」
- 28日(日)昼 「疫病と日本美術」
- 12月2日(木)昼 ★「震災のあとき、そしてこれから」
- 4日(土)昼 「いま、求められる想像力」
- 12日(日)朝 ★環境講座「身近なプラスチックを知ろう」
- ★はオンライン受講可能な講座です。

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせいたします。ご不明の点はお問合せください。



公民館 ☎ (572) 5141

公民館の状況▲



講師の村上雅人さん

の話に耳を傾けることが重要であらう。性暴力、生理、アフターピル、パンプス着用などについて、最近やっとメディアに載るようになったが、ここでは何が問題なのかを知ることである。

また、最近では世界各国で、差別から脱却して自由に生きていこうとする女性を描いた映画が作られているが、それらを見て女性の心情を知ることが良いだろう。

そこで判明した不平等な状況から、特権のある男性が差別を是正していく。そのときその男性は女性の支援者(アライ)となる。

「冷やせば電気抵抗がゼロになる超電(伝)導のなぞ」を受講して

中川 恵子

2021年9月19日、「冷やせば電気抵抗がゼロになる超電(伝)導のなぞ」の講座を拝聴いたしました。講師は、芝浦工業大学の元学長でいらつしやる工学博士の村上雅人先生です。

以上、女性差別について論じたが、マイノリティが差別されている場合、マジョリティが是正に動くべき、ということが本理論の肝である。この理論は、人種、在日韓国・朝鮮人、LGBTQ+、被差別部落などすべての差別問題について適用可能であり、抑圧に苦しむ人々を救うものである。この理論が浸透すれば、必ず世界は良い方向に変わる。(2021年7月25日、8月1、7日実施)

器のMRI装置等で応用されている「超電(伝)導」。個人的興味がありました。個人原理などを勉強する機会が無く、ちょっと知りたいと思っていたところ、国立駅近くの掲示板でこちらの講座がある事を知り、貴重なお話を聞ける機会を逃すまいと申し込み致しました。



幅広い年代の方が参加しています

来ました。村上先生は、世界で初めて、超電導体の電磁誘導を利用した人間浮上を成功させ、力士の土佐ノ海閑、お笑い芸人の松村邦洋さん、ミス北海道の方々や人間浮上を体験されたそうです。また、テレビで取り上げられ、現在の上皇陛下にもご説明とご実演をなさったという事です。超電導とは電気抵抗がゼロとなる現象のこと、電気抵抗がなくなれば発電所で作った電気を無駄にせずに送電ができ、省エネにつながるため、エネルギーの分野で大変期待がされているそうです。

講演の中で最も心に残ったのは、「地球は巨大な磁石であり(北極がS極、南極がN極)、その地磁気が、本来であれば大変危険な放射線である太陽から降り注ぐ「太陽風」から、地球を遮蔽しているため地上の生物は存在する事が出

来ていることです。それから、過去360万年で9回あったといわれる地磁気反転の際には地磁気が一時的に消え、「太陽風」が地上に降り注ぐという恐ろしい現象が起るのだそうですが、現在、「太陽風」から地球を守るため、赤道の周りに超電導ケーブルを設置し、人工の地磁気を発生させる計画」(当日いただいた資料より抜粋)が進

「東日本大震災から10年」 「仙台フィルから学ぶ復興支援のかたち」を受講して

桜井 英津子

講師は仙台フィルハーモニー管弦楽団の常務理事・事業部長である我妻雅宗さんです。震災後から、仙台フィルが復興支援で音楽と歩んだ10年を力強くお話くださいました。

仙台フィル自身も多くの被災者と同じ境遇の中で、今こそ音楽が必要と強く感じ、地域の人々に支えられ共に成長してきた団体として、復興の役に立ちたいという使命感を抱いていました。音楽で何かできないか……と誰からもなく声を掛け合ひ、状況が許す中コンサートが決まりました。最初のオーケストラの練習で、皆が集まって初めて出した一音に自然に涙が流れてきて、泣けて泣けて今ま



講師の我妻雅宗さん

で張り詰めていた心がフツと解放された瞬間に、音楽にはすごい力があると感じたと言います。

復興支援活動の原点となった小さなコンサートは、大震災の日から2週間後の3月26日、まだ被害の全容も明確でなく度重なる余震の中、仙台市内の佛光山見瑞寺境

内のバレエスタジオで「第一回復興コンサート」として産声をあげました。

その後、復興コンサートは音楽の力による「心のケアと復興」「コミュニティの再生」の2つを柱として、多くの経験知を蓄えながらこれまで千回近くを数え、今もお形を変えながら活動を続けています。その輪は日本全国、更には世界にも広がり、各地で復興コンサートが行われる様になり「とても勇気をもらい感謝の気持ちで一杯です。」と仰っていました。

数多く演奏してきた仙台フィルの復興コンサート(マラソンコンサート)では、毎回1曲目に追悼の意を込めバッハの(G線上のアリア)と最後に(ふるさと)を演奏。「この2曲には、相当の思い入れがあります。ただ、いまだふ



涙を流しながらお話を聞く参加者もいました



るさにと帰れない方、故郷が壊滅した方にとってはつらい曲だったかも知れません。」と選曲には慎重な配慮がなされていました。(講座後に「心に残っている曲」について質問させて頂きました。)

コンサートに集まった人々が「やっと泣けた」「笑顔が戻った」「励まされた」「癒された」と感じ、人々の心が寄り添い、音楽の力を核とした癒しと励ましの空間とコミュニティが出来てきたことは、被災地や被災者の方々の大きな復興の力となりました。

ただ、仮設住宅が解体され、そこに住んでいた方々が離れ離れになってしまった孤独感とその心のケアや、原発の問題による地域の復興の差など、今なお多くの課題が残されているとの事です。

全容を記した記録(音楽と歩んだ10年・音楽の力による復興センター(東北)を我妻さんが公民館に寄贈されました。是非ご覧下さい。(一部この記録も参考にして、書かせて頂きました。)

(2021年8月28日実施)

東日本大震災から10年

東日本大震災から10年が経ち、公民館では、節目の年として改めて震災を振り返り、今後の社会のあり方について考えるような講座を企画していきます。

〈東日本大震災から10年⑤〉

いま、求められる想像力
～チェルノブイリからフクシマへ～

講師 徐 京植 (作家、東京経済大学名誉教授)

世界のいたるところに存在する「名もなき抑圧された人々」を「ディアスポラ(何らかの外的な力によって故郷から離散して生きる人々)」として見つめ、数多くの著作を世に問うてきた作家・徐京植さん。

徐さんは東日本大震災直後の福島を訪ね、生々しく残る津波の爪痕や原発事故に翻弄される方の苦難に向き合い、思索を重ねてこられました。そんな徐さんの想いは、『チェルノブイリの祈り』で知られるスヴェトラナ・アレクシェーヴィチさんとも響き合い、TV番組の企画を通して2人の対話を実現しました。

今回は徐さんに、ご自身が福島で触れたことや思い・アレクシェーヴィチさんとの対話についてお話いただきます。東日本大震災から10年を経たいまだからこそ、小さなひとりの人間として、自分自身の“フクシマ”を考えるきっかけになればと思います。

とき 12月4日(土) 昼2時～4時

ところ 公民館 地下ホール

定員 40名(申込先着順)

申込先 11月11日(木)朝9時～公民館 ☎ (572) 5141

〈東日本大震災から10年④〉

オンライン
受講可能

震災のあのとき、そしてそれから

講師 菊池 のどか (8kurasu 防災教育推進担当)

岩手県釜石市で生まれ育った菊池さんは、中学2年生のとき、東日本大震災を経験しました。菊池さんの通っていた学校では、震災前からの防災教育のため、海からわずか500m足らずの距離に学校があったにも関わらず、生徒の多くが津波から逃れることができました。大地震があったあの日、菊池さんは何を思って、どう行動したのでしょうか。そして、その後の被災地での日々はどうだったのでしょうか。

10代の多感な時期に震災を経験し、現在も釜石で暮らす菊池さんに、これまでの出来事や感じてきたことについてお話いただきます。

※講師はオンライン中継でのお話になります。

とき 12月2日(木) 昼2時～4時

ところ 公民館 地下ホール

定員 会場受講：40名 オンライン受講：30名

※いずれも申込先着順

申込 11月10日(水)朝9時～11月26日(金)夕5時

※申込先は5ページをご覧ください。

〈新型コロナウイルス関連⑤〉
流行り病の民俗学
 ～日本人の病因観と差別の論理～

講師 柏木 亨介 (國學院大學)

長い歴史のなかで、日本人は幾度となく疫病の蔓延を経験し、「疫病習俗」と言われるさまざまな対処法を生み出してきました。悪霊や鬼の仕業で病になると考え、それらを追いつぶすためにおこなう祭り。疫病を神様に見立て、村への侵入を防ぐため結界を張る儀礼……。

一方で、そのような対処が偏見や差別も生んできたことに柏木さんは注目されています。近代医学がもたらされる以前に考えられた病因観は、決して過去のものではなく、現代のコロナ禍における社会のひずみに相通じるものがあるのです。

疫病と向き合うなかで生まれる社会問題の歴史的、文化的背景をお話いただくことで、私たちがどのような態度でコロナ禍に臨むかを考えるきっかけとなればと思います。

とき 12月5日(日) 昼2時～4時
 ところ 公民館 地下ホール
 定員 40名(申込先着順)
 申込先 11月12日(金) 朝9時～
 公民館☎(572) 5141



〈新型コロナウイルス関連④〉
疫病と日本美術

講師 山本 聡美 (早稲田大学)

これまで様々な疫病の脅威に見舞われるなか、人々は病とどのように向き合い、乗り越えてきたのかを日本美術の側面から考察します。昔の人々は、人智を越えた疫病という存在をどのように捉えていたのでしょうか。その描かれ方は時代によって異なり、当時の人々の考えが窺えます。

中世日本で制作された、病や死、地獄や鬼といった作品群を研究対象としてきた山本さんに、過去を生きた人々が何に恐怖し、完全には克服することのできない闇といかにして、対峙、または共生してきたか、お話いただきます。

〈山本さんの本〉
 『闇の日本美術』(筑摩書房)、『九相図をよむ 朽ちてゆく死体の美術史』(KADOKAWA) ほか

とき 11月28日(日) 昼2時～4時
 ところ 公民館 地下ホール
 定員 40名(申込先着順)
 申込先 11月9日(火) 昼2時～
 公民館☎(572) 5141



〈環境講座〉
身近なプラスチックを知ろう
 ～プラスチック・フリーの第一歩～

オンライン
 受講可能

講師 西岡 真由美
 (ノンフィクションライター)

プラスチックが環境問題を引き起こしていることは知っているけれど、身近な製品に多く使われているプラスチックを、全く使わない生活は難しい、と感じていませんか？

この講座では、プラスチックに代わる素材を使用した様々な製品を紹介します。実物を見たり触ったりしながら、その製品を使用するメリット、デメリットを話し合います。「プラスチックと環境の関係について詳しくない……」という方も大丈夫！環境問題やサイエンス記事を手掛けている西岡さんに、まずは基本的な知識から、そして、何が問題視されているのかということについて、様々な実例や調査結果、研究者のインタビューなどを交えながら、分かりやすく解説していただきます。

とき 12月12日(日) 朝10時～12時
 ところ 公民館 3階講座室
 定員 会場受講：15名 オンライン受講：30名
 ※いずれも申込先着順
 申込 11月16日(火) 朝9時～12月9日(木) 夕5時
 ※申込先は5ページをご覧ください。



〈人権講座〉
インターネットと中傷被害を考える
 ～こんなとき、どうしたらいいの？～

講師 佐藤 佳弘 (武蔵野大学名誉教授)

昨年、女子プロレスラーの方が中傷コメントを受け続け、亡くなってしまったことは社会に大きなショックを与えました。もし自分が誹謗中傷を受けたら、どうすればいいのでしょうか。「中傷コメントって消せないの?」「書き込んだ本人の特定はできないの?」「どこに相談すればいいの?」等、正しい知識や対処法を身につける機会がないまま、インターネットを使っている人がほとんどではないでしょうか。

今回は、インターネットと人権侵害について、各地で数多くのご講演をされている佐藤さんをお招きし、インターネット上の誹謗中傷による人権侵害の事例を、分かりやすく解説していただきます。各事例の問題点や、もし自分や身近な人が当事者となってしまったらどうすれば良いかということをお話させていただきます。

とき 11月27日(土) 朝10時～12時
 ところ 公民館 3階講座室
 定員 15名(申込先着順)
 申込先 11月9日(火) 朝9時～
 公民館☎(572) 5141



*「キラリ☆人権」マーク：11月～1月はくにたち人権月間です。詳しくはくにたち市報11月20日号をご覧ください。

～オンライン受講可能な 講座の申込先～

会場受講：公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

オンライン受講：

✉ sec_kominkan@city.kunitachi.lg.jp

→参加方法の詳細は、前日までにメールいたします。

※申込みメールには以下の項目を明記してください。

件名：申込みを希望する講座のタイトル

本文：①氏名

②ふりがな

③住所

④電話番号

件名

「〇〇講座」オンライン受講の申込み

から B I U S 100%

①国立太郎

②くにたち たろう

③国立市〇〇丁目〇〇番地の〇

④042-〇〇〇-〇〇〇〇

メール画面参考▶

当日、参加者側の環境における接続や音声・映像の不具合についてのお問い合わせには対応できませんのでご了承ください。

〈くにたちブッククラブ 人生、野を越え山越えて〉

向田邦子『思い出トランプ』

(新潮文庫)

講師 小平 麻衣子 (慶応義塾大学・日本近代文学)

とき 11月11日(木) 夜7時半～9時半

ところ 公民館 地下ホール

定員 30名(今年度すでに申込済の方は申込不要です。)

*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が「読み」を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

オンライン
受講可能

〈図書室のつどい〉

ろうの両親から生まれたぼくが聴こえる世界と
聴こえない世界を歩き来して考えた30のこと

お 話 五十嵐 大 (ライター、エッセイスト)

宮城県の実家の平凡な町で、耳の聴こえない両親から生まれた著者は、小学校3年生まで聴こえない親に何の疑問も持ちませんでした。しかし、ある日、母親の喋りを友人に笑われてから「普通でない家庭」とコンプレックスを抱え続けます。時に母親につらく当たり、大好きだけれど大嫌いの間で揺れ動く、葛藤や悩みを綴ります。

高校卒業後の上京で悩みから逃避しますが、祖父母の死、東日本大震災、父親の入院等で、再び家族と向き合うことになり「聴こえる人がひとりもない実家」のため、会社勤めをやめて、フリーランスの物書きに転職します。

今は幼い頃のわだかまりはなく、「自分にはなにができるのか」を問い続け、母親との過去を振り返りながら、聴覚しようがいについて書くことが生きる意味となっています。

ほとんどが健常者の視線で構築される社会にあって、ろうの両親の子どもとして、自分自身の経験を通し、聴覚しようがいの出来事を「とにかく知ってもらいたい」と話しています。

〈五十嵐さんの本〉表題作(幻冬舎)、『しくじり家族』(CCCメディアハウス)

とき 11月21日(日) 昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室

定員 会場受講：15名 オンライン受講：30名

※いずれも申込先着順

申込 11月9日(火)朝9時～11月18日(木)夕5時

※申込先は左上をご覧ください。



〈哲学講座〉

やなぎむねよし

長谷川宏さんと読む「柳宗悦」



講師 長谷川 宏 (哲学者)

ヘーゲルの翻訳や哲学研究で多くの著作を出している長谷川宏さんを講師に、鶴見俊輔著『柳宗悦』をテキストとして取り上げます。

このテキストは、思想家である柳宗悦を、周辺の多彩な人物と共に生き生きと多面的に描写し、同時に戦後、転向の問題を繰り返し問い続けてきた著者自身の問題意識が貫かれています。講読を通じて、哲学の観点から考えます。

※テキストの『柳宗悦』(平凡社、平凡社選書、平凡社ライブラリー)をご用意ください。

〈長谷川さんの著訳書〉

ヘーゲル『精神現象学』の翻訳でドイツ連邦政府翻訳賞受賞。『高校生のための哲学入門』(ちくま新書)『ことばをめぐる哲学の冒険』(毎日新聞社)、『双書哲学塾 生活を哲学する』(岩波書店)、『ちいさな哲学』(春風社)ほか多数。

とき 1月15日、22日、29日、2月19日、26日(全5回)

いずれも土曜日、昼2時～4時

ところ 公民館 地下ホール

定員 40名(申込先着順、全回出席できる方)

申込先 市内在住者12月15日(水)朝9時～

市外在住者12月22日(水)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

来年度、保育を希望するグループは お知らせください

公民館で活動している市民グループに継続的に参加する場合に限り、活動時間中に公民館の保育室で保育を行います。来年度(2022年4月～)保育を希望するグループ、考えているグループは1月末までに公民館へお知らせください。

〈開室時間〉

火曜日～金曜日 午前10時～12時

午後2時～4時

土曜日 午前10時～12時



〈要件〉

国立市内在住の学齢前の子ども。毎週火曜日、毎週水曜日というように定期的に通えること。

*詳細は公民館へお問い合わせください。

公民館 ☎ (572) 5141

くにたち デジタルブック

QRコード
デジタルブック
くにたち



過去の公民館だよりをご覧になりたい方は、『くにたちデジタルブック』もご活用ください。

国立市デジタルライブラリー

検索

〈親子で遊ぼう・考えよう〉 長い絵巻物を作ろう

身長よりも長い紙に好きな絵を描いてオリジナルの絵巻物を作ります。紙を切って好きな長さにつなげて好きな画材で描きます。親子で世界で一つだけの絵巻物を作りましょう。

講師 山田 修平

(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

とき 12月5日(日)朝10時～12時

ところ 南市民プラザ 多目的ホール

持ち物 ハンドタオル、飲み物、汚れてもいい服装

対象・定員 子ども(3歳から10歳)と保護者

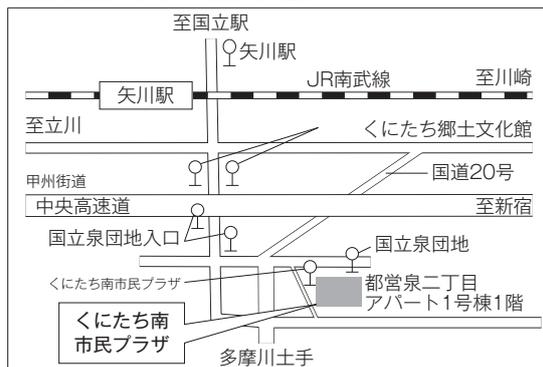
8組(申込先着順)

申込先 11月17日(水)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5141



■南市民プラザへのアクセス



*JR南武線矢川駅より徒歩15分
*立川バス「国立泉団地」バス停下車1分

〈社会教育学習会・パネルディスカッション〉

コロナ禍における学びとつながり ～公民館の役割と期待すること～

新型コロナウイルス感染拡大により、私たちは経験がないような不自由な生活を過ごすことになりました。特に昨春は初の緊急事態宣言により、公民館を始めとする社会教育施設の多くが休館となりました。国立市公民館も休館となり、開館後も利用制限を受け、私たちは「当たり前の生活」がなくなる不安や焦りを感じました。多くの人が、その中でも試行錯誤を重ね、学び、集うために何ができるのかを考え、活動を続けてきたのではないのでしょうか。

今回の社会教育学習会では、公民館を利用する各団体、公民館職員からコロナ禍の活動や仕事を通じて見えてきたこと、課題、思いなどをお話ししていただきます。また、公民館運営審議会からの報告等もふまえて、社会教育行政や公民館は、私たちの権利としての学びをどう保障していくことが大切なのか、また、「大人の学び」や「主権者として生きる」とは何かをみなさんとともに考える機会とします。

*この学習会は公民館運営審議会との共同企画です。

報告 末光 翔(公民館運営審議会委員長)

コーディネーター 長澤 成次(放送大学千葉学習センター所長・公民館運営審議会委員)

- パネリスト
- ① 公民館利用連絡会
 - ② 喫茶わいがや
 - ③ KUNIFA日本語サポート
 - ④ 心遊会
 - ⑤ ライフデザイン2018
 - ⑥ LABO☆くにスタ
 - ⑦ 国立市公民館職員

とき 12月18日(土) 昼1時半～4時

場所 公民館 地下ホール

定員 40名(申込先着順)

申込先 11月16日(火)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5141

ひろば

(8ページにもあります)



大学通りの紅葉

撮影 東照夫さん(中)

人物画の会 22回展

秋の展覧会を行います。人物画を中心に静物、風景画も加え約80点の展示です。色々騒がしい周辺ですが、皆様と穏やかな時間が過ごせる様、お待ちしております。

日時 11月15日(土)1時～11月20日(木)17時

場所 芸小ホール ギャラリー1

連絡先 榎本(571)0385

数学を楽しむ集い(11月期)

半円の不思議な性質や立方体の断面の形を考えます。数学の思いがけない使い方がお分かりいただけます。どなたでも気軽にお越しください。参加の方は、お電話を。

日時 11月20日(土)27日(土)1時～17時

場所 公民館 集会室

連絡先 山本(572)1028

公民館各会場 定員制限緩和のお知らせ

新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い、10月26日より、公民館各会場の定員制限(目安)を以下のとおり緩和してご案内しています。

ホール 64名	中集会室 15名
音楽室 15名	小集会室 8名
講座室 27名	和室 15名
集会室 23名	実習室 8名

今後の動向により、会場の定員に変更があった場合は、随時公民館内での掲示やホームページでお知らせいたします。

ご不明の際はお問合せください。
公民館 ☎(572)5141



会場の定員について▲

※引き続き、下記の通り感染症予防対策にご協力をお願いいたします。

公民館へご来館の際のお願い

平素は新型コロナウイルス感染症予防対策にご協力いただきましてありがとうございます。

感染拡大防止のため、講座参加と会場ご利用の際は、引き続き以下の点にご留意ください。よりよい学習環境を保つために皆様のご協力をお願いいたします。

- ・自宅で検温してからお越しください。(発熱37.5℃以上、咳、咽頭痛等の症状のある方はご来館をご遠慮ください。)
- ・マスクを着用してください。
- ・石けん等による手洗いや消毒液による手指の消毒を行ってください。
- ・過去2週間以内に感染拡大の地域や国へ訪問歴のある方はご来館をご遠慮ください。
- ・会場のご利用にあたり、サークル・団体の代表者等は、参加者氏名と緊急連絡先を必ず把握し、保健所等から依頼があった場合は、参加者名簿を提示してください。
- ・会場はこまめに換気してください。

公民館運営審議会報告

10月12日(火)第33期第12回定例会を開催。委員15名、館長、職員2名出席。傍聴者5名。

前回議事録確認

若干の修正を確認した。

報告事項

○公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会について報告があった。

協議事項

○次年度職員体制要望の意見交換について、要望書提出時期及び要望内容を検討し協議をした。

○社会教育学習会担当委員から予定と内容の報告があった。12月18日(土)13時30分から地下ホール

にて開催。「コロナ禍における学びとつながり」公民館の役割と期待すること」をテーマに、多様な団体からお話いただく。

○諮問「新型コロナウイルス感染拡大時における教育機関としての公民館事業について」を受けて、前月までの記録・検証を元に、各委員より提出されたレポートをまとめ、スケジュールを確認し今後の進め方を議論。役割分担は、a.記録班、b.アンケート班、c.検証・提言執筆班、d.学習班で、資料を参考に検証し答申作成に向けて進める。

次回定例会は11月9日(火)夜7時15分から地下ホール。感染予防の上、傍聴歓迎。(山口)

ひろば



くにたち国際友好会WING

11月の国際理解講座は一橋大学OBの甲斐隆之さんに多民族国家のカナダ、格差社会インドでの生活体験から「生きやすい社会」についての話です。事前申込み下さい。
日時 11月25日(木) 夜7時～9時
場所 ZOOMで行います。
連絡先 和田090(349)2110

ガールスカウト東京都第148団

私たちが様々な体験や野外活動してみませんか？自ら考え行動する力を養います。年中～小学生少女募集。説明会開催します。要予約。
日時 12月5日(日) 朝10時～12時
場所 福祉会館 講座室
連絡先 高橋(57)4395
girlscouts.tokyo.148@gmail.com

ー1月(ロビ-2月分) 会場調整会のお知らせー

申込書のポスト投入期間	11月6日(土)～25日(木)
公用使用の貼り出し	11月10日(水)頃
予約の重なりのある団体の掲示開始日	11月27日(土) 重なり状況▶ 
会場調整会	12月4日(土)朝10時～

- ・予約の重なりのある、なしに関わらず、電話による連絡はいたしません。(ご不明な点は、公民館へお問い合わせください。)
- ・会場調整会へは、1団体1名の方が、手洗い・マスク着用等の感染症対策のうえ、第1希望の会場がとれなかった場合の別の候補日も想定して、活動日を決定できる方がご参加ください。

会場調整会は朝10時までに受付を済ませてください。



「ひろば」欄投稿規定

市内の団体・グループ活動のお知らせの場です。原稿の締切りは掲載希望月の前月7日午後5時です。会員登録は6カ月に一回掲載することができ、紙面の都合により翌月掲載となることがありますので、ご了承ください。ファックスでの提出も可能です。

「ひろば」写真募集

国立の風景や行事、自然などの写真を募集しています。ご協力いただける方は公民館までご連絡ください。

〈サークル訪問361〉 スペイン語会

スペイン語を教えてください。村内カリンさんは、有名なナスカの地上絵やマチュピチュ遺跡のあるペルー出身です。大学では教育学を専攻していました。

日本に来てからは、武蔵野国際交流協会などでペルーの料理を紹介するなど文化交流をしてみました。

「みなさんと南アメリカをつなぐきっかけになれば」という想いから、公民館やくにたち地域支援活動室「くにたちコラボ」でスペイン語を教えてください。もちろんスペイン語を初歩から教えるだけではなく、カリンさんのバックグラウンドである様々なペルーの文化も楽しみながら伝えたいのとです。

ペルーは海沿いの地域、山岳地帯、そしてアマゾン川流域と3つの地域に分類できるそうで、それぞれ食事や装いが全く異なっているとのこと。そういう話を聞いたリ、民族衣装を着て踊りを披露するカリンさんの写真などを見せてもらったりするのも楽しい時間です。

取材の日の生徒さんはウクライナ出身のカテリーナさん。来日5年ですが、流ちょうな日本語で答えてくれました。なぜスペイン語を？「友だちが(スペイン語圏に)いるので、勉強したくて聞き取ることは出来るようになったのですが、まだ話せません」と言いますが、カリンさんとの会話はスペイン語。



村内カリンさん(左)とカテリーナさん

カリンさんはロシア語会話のテキストを持参していました。カテリーナさんと、もつとコミュニケーションが取れるようにしたいからだそうです。
「コロナが終わったら大好きなお菓子作りも披露したい」と希望を話してくれました。
初心者大歓迎とのこと。
日時 金曜日 昼1時～2時
場所 公民館
連絡先 村内
carina210530@hotmail.com
(文・写真 西尾万樹)